

あいうえおの人生

校長 鈴木 恵一

3年生は高校卒業。私は高校教師卒業です。私はたくさんの失敗とほんの少しの成功で今日まで生きてきました、様々な縁に生かされてきたと言ってもよいでしょう。これから恩送りする第二の人生を始めようと、あれこれ人生のリストラクチャリング（再構築）を思案しているところです。

人生を振り返れば、そこには、「愛（あい）」「運（うん）」「縁（えん）」「恩（おん）」がありました。偶然の出会いや出来事でスタートしていることが結構あったなあと思うのです。でも、もしかするとそれは必然だったのかもしれないとも思うのです。父が生前に言っていた言葉をふと思い出しました。「小さな偶然が積み重なると必然になることもあるんだぞ」

私たちは日常的に起こっている些細なことを見過ごしていないだろうか。もしかすると、そこに人生のヒントや真実が潜んでいるかもしれない。そう考えるようになったのは歳を重ねてきたからなのでしょう。若い頃は、「あいうえお」に対して、あえて目を背けていた時期がありました。疎ましいと思うこともありました。自分のことしか考えていない身勝手な物言いだったこともありました。もっと早く気が付けばよかったなあと思う反面、いいだけ失敗を重ねてきたからこそ気付けたことなのかなとも思うのです。

メンター（師）の話は、放つ言葉の響きが違います。自分も同じ言葉を口にしたり文字にしてみるけれど何かが違うと感ずることがあります。言葉の深さ、重さが違うのかな、歩んできた道が違うのかな、悲しみや苦しみの深さが違うのかな、自分は努力が足りないのかな、悲しいな、悔しいな。でも、その人から勇気をもらいました。小さいことだけど、自分にもできそうなことがあるぞと。心を正

しい方向に向けること、正しい努力の仕方があること、正しい習慣を身に付けることの大切さを優しく教えてくれたのです。

師は、その総合体を「環境づくり」と言いました。よく、運がいいとか悪いとか言うけれど、必要なのは運を引き寄せる行動を自ら起こし、チャンス（chance）が巡ってきたらそれを逃さずチャレンジ（challenge）し、チェンジ（change：変化＝成長）すること。「3C」ですね。人生は選択と意思決定の連続です。計画を立てて優先順位を決めたとしても、何かの拍子に順番がガラガラボンと入れ替わってしまうことだってあります。悲しい出来事もあれば嬉しい出来事もあります。その度に、物事の考え方や見方を変えざるを得ないのが人生です。

私たちは経験上、努力しても叶わないことがあることを知っています。努力は万能ではありません。でも、努力は決して無駄ではありません。努力という行為には心を磨く力が宿っています。心が磨かれれば言葉も磨かれます。すべては自分のためですが、それが誰かの力になる時が来ます。縁に導かれて受けた恩を返す時が必ず訪れます。父さん、母さん、ごめん。言いそびれたけれど、あなたから受けた恩を誰かに送ります。今になってそう思うのです。

私たちが経験した令和二年度の出来事は、人類史上でも希な強敵でしたが、共生社会を築くためには、どんな心持ちであるべきかを学びました。後世に送らなければならないことは何か、あなたの胸にも刻み込まれたはず。未来の予測が難しい時代に突入したことは間違いありません。変化に対してその都度、対応する力が求められます。愛を忘れないでいきましょう。運を引き寄せる努力をしましょう。縁に感謝しましょう。受けた恩を誰かに送らしましょう。

啓北商業高校を通じて出会ったすべての皆様、ありがとうございました。わたくし、齢六十にして改めて志を立て直します。